園名　大淀町立第一保育所

はばたくなら③
保育環境を通して自主性を育てる
～子ども一人一人と向き合う中で～

１歳児～５歳児

取組について

〇子どもは明るく元気で活発に過ごしているが、遊びの中で自主的に行動ができにくく指示待ちの子どもや、じっくりと遊べない子どもが見られた。

〇保育者間で「環境」についての研修に取り組み、環境を見直すために幾度も園内研修を行い、各クラスを全職員で見て回って保育環境を整えてきた。

〇担任や友達と信頼関係を築いていく中で、子どもにもっとやりたい・やってみたいことを見つけて、自ら行動していけるようになってほしいと思った。自己選択や自己解決の能力が人間力の基礎であり、生きるための力を育成するために乳児期からの自主性を育てていくことの重要性を感じた。

〇子どもの年齢や成長発達に合わせて、興味を示す遊びのコーナーを作ったり、玩具を入れ替えたりした。

〇遊びの中で一人一人の子どもとの関わりを大切にし、子どもが何を求めているか、子どもの気持ちに寄り添って保育環境を整えてきた。

・・・子どもの姿　・・・子どものつぶやき　・・・保育者の思いや工夫

１歳児

一人一人に合わせた好きなあそびを十分に楽しめるようにし、子どもの気持ちを受け止め、ゆったりと関わっていくことで、子どもがより、のびのびと自分のしたい遊びを見つけていけるようになってきた。また、保育者自身が子どもの発達、子ども同士の関わり方、援助のあり方がわかってきた。

プレイルームでは、お気に入りのボールプールで友達との関わりができ、遊びを楽しんでいる。

ままごと遊びも保育者が仲立ちをして、「おいしいね」「どうぞ」などやり取りをしながら友達と関わる面白さや、楽しさを感じられるようにしている。

「もしもし」
子どもとの丁寧な関わりを大切にしている。

２歳児

子どもの発達に合った玩具、興味ある玩具が部屋においてあるかを担任間で話し合い、一人一人を観察して環境を整えていった。子ども自身が好きな遊びを見つけて遊びを楽しみ、友達との言葉のやり取りも楽しむ姿が見られた。

手作りのボタンかけ

パズル遊び

部屋のコーナーに用意された玩具や遊具などで、集中して遊びを楽しんでいる。

以前の仕切りが高かったため低くして子どもがどんな遊びがあるのかがよく分かるようにした。

「ちょうちょや～」
「どれ～」

３歳児

子どもが興味を示す自然物で遊んだり、小動物の飼育や観察を通して遊び、子どもの気付きや想像力など遊びが広がる姿が見られるようになった。興味のあるものを用いることで一人一人が意欲的に活動できた。

「ザリガニ見つけた～」

「ハサミをあげて怒ってるのかな～？」

図鑑を用意し身近な小動物に関心がもてるようになり、子ども同士の関わりが増えてきた。

身近な環境に好奇心や探究心をもてるようにし、子どもの気付きを受け止めている。そうすることで、子どもの要求が満たされるようになり、満足感が味わえる。

「あさがおでそめたよ～」
「きれいにできたよ～」

あさがおの絞り染めをしたよ

4歳児

外国にルーツをもつ子どもがいるので視覚的に伝えられるプランニングボードを導入した。子どもはどんな遊びがあるかを把握し、たくさんの選択肢から自分の好きな遊びを選んで集中して遊ぶ姿が見られるようになってきている。個々の遊びから、友達同士で相談して次の遊びへ発展させる姿も見られるようになってきた。

プランニングボード

部屋のコーナーを写真にしてボードに貼り、子どもが自分で好きな遊びを決めてそこへ自分の写真を貼る。遊びを変えるときは、ボードに貼ってある自分の写真を移動する。そうすることにより、玩具の取り合いなどのトラブルも減り、遊びも集中できるようになった。

なにをしようかな～

LaQ（ラキュー）コーナー

絵本コーナー

自分で遊びを決めて各コーナーに分かれて遊ぶことにより、落ち着いて遊べるようになってきた。自分のやりたい遊びを見つけて、自分で決められるようになってきた。

ブロックコーナー

5歳児

子どもがよく遊んでいるブロックコーナーが狭く、トラブルが多かったこともあり、部屋にある5つのコーナー遊び（絵本・ままごと・ラキュー・マグフォーマー・ブロック）の見直しを行った。しかし、部屋の中では広さに限界があり、ホールに移動して遊ぶことで、ブロックだけでなくレゴやカプラなどを組み合わせて、のびのびと遊び出す姿が見られるようになってきた。次の展開として、空き箱など様々な素材を準備すると、友達同士で協力して1つの物を作り上げる遊びへと繋がった。子どもが「遊びたい」と思い、「こんなことがしたい」と自主性や想像力が育まれてきた。

どの曲にする～？

5歳児の当番が「今日のリズム遊び」の曲を決め、皆に放送で伝えている。園庭で全園児での交流の場となり、異年齢児の関わりを深めている。

部屋でのブロックコーナーは狭く、またブロックの数も少なかったためトラブルが生じやすかった。そこで他のクラスから遊んでいないブロックを借りたり、購入したりして広いホールで遊ぶようにした。そうすることでトラブルは減少した。また、子どもは遊びに集中して遊び込めるようになってきた。

リズム遊び（うーたんタイム）

うたの広場

色んな箱があるわ～何作ろうかな～

ホールにてブロック遊び

（まとめ）

・各保育室で遊びのコーナーを広くとり、密にならないように工夫しながらも、子どもが十分な遊びを楽しめるような環境づくりに取り組んできた。園内研修を幾度も繰り返し、保育者同士の意見交換も行った。「保育環境が変われば子どもの姿も変わる」というように、環境一つの変化は小さなものでも、子どもにとっては大きな変化があり、遊びの選択肢が増え、遊び自体が深まっていく姿が見えてきた。

（成果）

・デイリープログラムをイラストにしたり、シンボルマークの取り組みや遊びの量を増やしたり、視覚化を行ったりしたことで子どもが自分から行動し遊び出すようになってきた。また、友達と協力してより大胆に遊ぶようになり、今まで興味のなかった遊びに挑戦する姿も見られ、取り組みの重要性を強く感じた。

・また、子どもの育ちとして、3歳児から5歳児は給食を食べる時間を、遊びを終えた子どもから自分のタイミングで食べ始めるようにするなど、自分のことは自分で決めるようになってきた。保育者自身が保育の中で細やかな配慮に気付くことや、子どもにとっての選択肢を多く整えることで子どもの自主性が育つことが分かった。

・保育所全体で玩具のバランスを含めた環境の見直しをし、保育者間での意見交換をする重要性に気付き、自分のクラスだけでなく、園全体が協力して環境を整えられたことが何よりの成果だと思う。

決められた時間内に、自分で食べる時間を決めて、自分の食べられる量の給食を選んでいる。

（課題）

・保育者が日々の保育で子どもと夢中で遊んでいるかを捉え直した。子どもにとっての人的環境の大切な存在の一つが保育者であるため、職員間で協力し、よりよい保育環境を目指して研修を積み重ねていきたい。